

## 名古屋市公会堂(なごやしこうかいどう)

員 数：1棟  
 所在地：名古屋市昭和区  
 所有者：名古屋市

名 称	形 式	大 き さ	建 設 年 代	改 修 歴	登 録 基 準
名古屋市公会堂	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階地下1階建	建築面積 2,765㎡	昭和5年 (1930)竣工	昭和33年 (1958)、 昭和55年 (1980)、 平成31年 (2019) 改修	造形の規範と なっているもの

## 【概要】

名古屋市公会堂は名古屋市昭和区の鶴舞公園内に所在している。昭和5年(1930)に昭和天皇の御成婚記念事業で建築され、設計は名古屋市建築課が担当し、施工は大林組、大阪鉄工所、清水組など、多数の業者が請け負っている。

名古屋市公会堂が位置する鶴舞公園は、明治42年(1909)に開園され、噴水塔と奏楽堂の二つの建物が鶴舞公園の東西の軸となっている。名古屋市公会堂はその噴水塔と奏楽堂が形成する東西軸に直交するように噴水塔の北に配置され、名古屋市公会堂と噴水塔が鶴舞公園の南北軸を形成する。

名古屋市公会堂は、戦後に米軍に接収されたが、名古屋市に返還された後の昭和33年(1958)に玄関庇の復旧、連結椅子の整備、冷暖房用空気吹出口の取付けなどが完了し、昭和55年(1980)には外部タイルの部分補修やエレベーターの取替えなどの改修が行われている。その後、平成31年(2019)3月に耐震補強を始めとした大改修を完了し、現在に至っている。

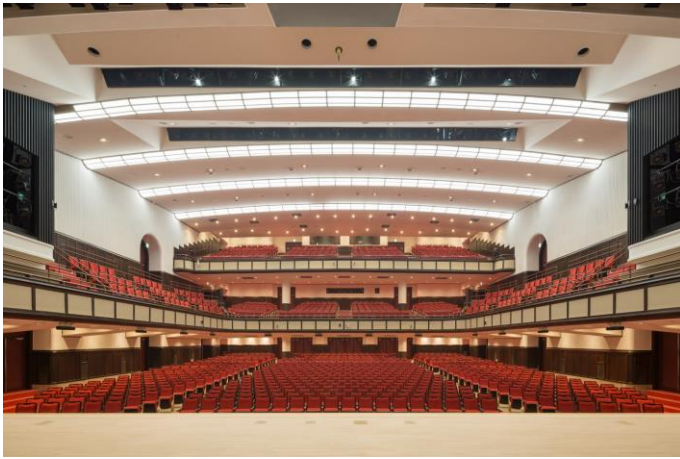
外観は全体的に落ち着いた茶色の色調で整えられ、最上階の円形アーチや隅部の丸み、半円形窓などロマネスク<sup>1</sup>的な表現が特徴的である。内部は1階から3階まで吹抜けの大ホールを中心にし、各階その周囲に集会室や和室などの部屋を置く。

このように、名古屋市公会堂は度重なる改修があるものの、創建時の様相を大きく損なうことなく残されており、昭和初期の鉄骨鉄筋コンクリート造建築の好例となる建造物である。

ロマネスク様式<sup>1</sup> 11世紀から12世紀にかけてヨーロッパで流行した建築様式。小さな窓や半円アーチなどを特徴とする。



名古屋市公会堂 外観



名古屋市公会堂 大ホール